

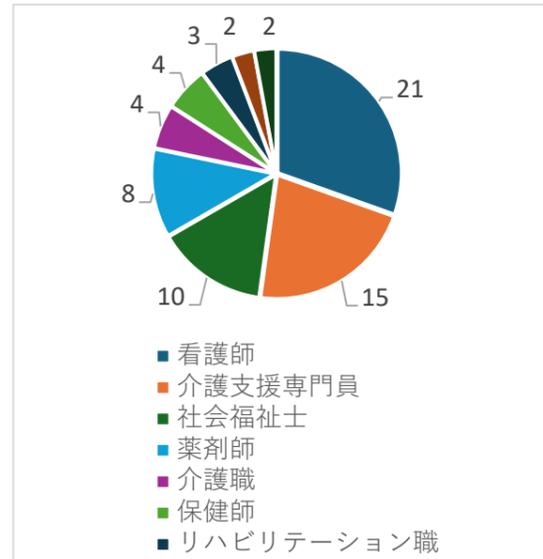
第11回 あ・うんネット周南多職種連携研修会
医療・介護・福祉リレー学習会 アンケートまとめ

R8.2.25 18:30~20:40
zoomウェビナー配信

申込者数	114
アンケート提出者数	69
参加者数	120

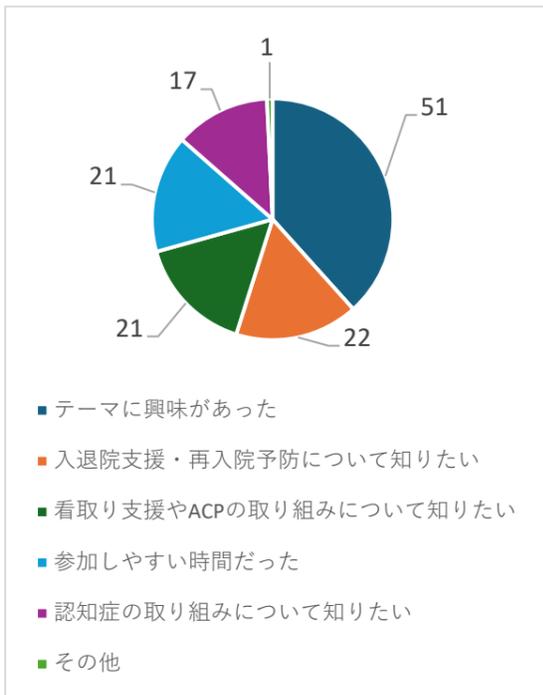
参加職種

看護師	21
介護支援専門員	15
社会福祉士	10
薬剤師	8
介護職	4
保健師	4
リハビリテーション職	3
医者	2
その他	2
歯科医師	0
精神保健福祉士	0



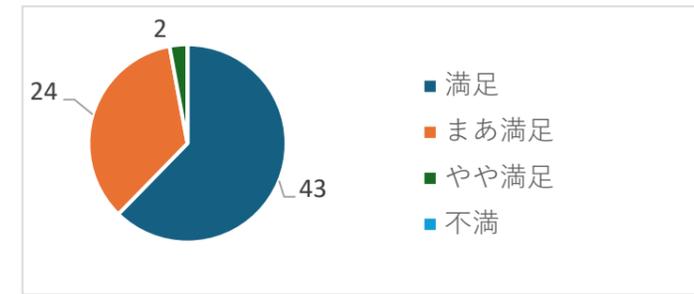
参加動機について

テーマに興味があった	51
入退院支援・再入院予防に	22
看取り支援やACPの取り 組みについて知りたい	21
参加しやすい時間だった	21
認知症の取り組みについ て知りたい	17
その他	1



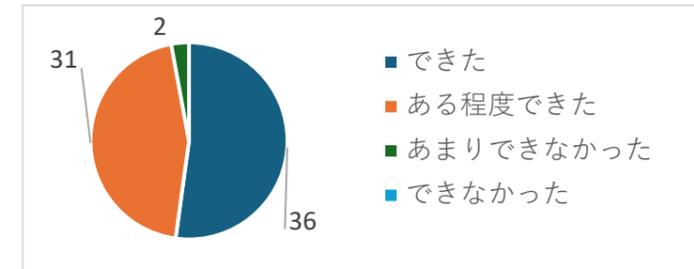
内容の満足度

満足	43
まあ満足	24
やや満足	2
不満	0



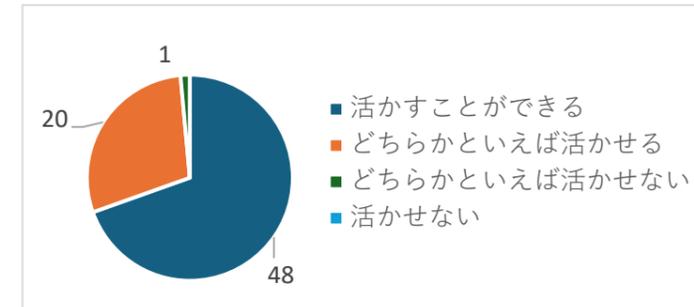
必要な知識を得ることができたか？

できた	36
ある程度できた	31
あまりできなかった	2
できなかった	0



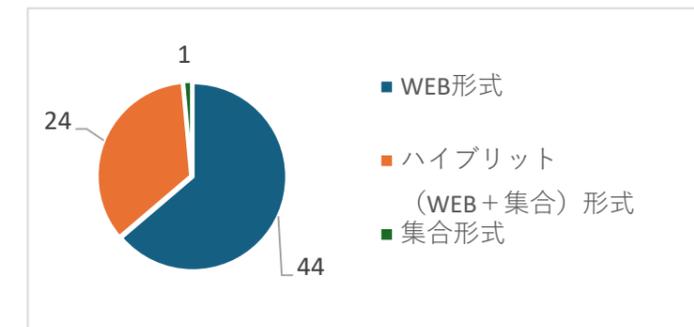
今後の支援に活かすことができるか？

活かすことができる	48
どちらかといえば活かせる	20
どちらかといえば活かせない	1
活かせない	0



参加しやすい研修方法

WEB形式	44
ハイブリット (WEB+集合)形式	24
集合形式	1



印象的だったこと、新たな気づきになったこと、専門職として取り組みたいこと等

- ・立場の違いを理解することは大切だと思った。
- ・入退院支援について、特に病院側からの意見はとても興味深く聞いた。
- ・最初に小野先生から紹介のあった映像はとてもよかった。
- ・救急外来においても退院してからの関わりも必要だと感じていたが、今回地域との関わり方、他職種との関わり方や在り方を知ることができた。
- ・病院で働いているので再入院のケースを地域側の視点で知れておもしろかった。
- ・1ヶ月先を目標とした退院支援を実践していきたいと思った。
- ・認知症＝できないことが増える、支援が必要になる、という視点が先行し、その人自身の人生や思いを十分に見ようとしていなかったのではないかと、改めて振り返る機会になった。
- ・狭い環境の中で仕事をしていると、自分では気が付かないうちに考え方が固まっていることに気づくことができた。
- ・様々な職種・職場の方達とコミュニケーションをとることが大事だと思った。
- ・小野先生がご紹介してくださった3つのライフが分かりやすく印象的だった。
- ・その人、家族に沿った看護の提供へシフトチェンジが必要だと感じました。
- ・再入院予防WGからの発表で長期入院の弊害の話は大変参考になった。
- ・認知症ワーキングでは参加者の皆様の認識が変わって行く様子が印象的でした。
- ・認知症ワーキングの3名が代わる代わる話したのが良かった。短時間でも良いから、経験談を多く盛り込んでほしい。
- ・再入院のリアルでは、病院側と在宅側双方の視点から想いや抱えている課題、原因など多角的に話を聞くことができ大変興味深かった。
- ・話に共感しつつ、自分が病院の立場でしか物事を見てなかったことにハッとさせられた。関わる関係者皆で話し合っすり合わせをしていくことが本当に大切だなと感じた。
- ・看護サマリーを送って退院させるのではなく(時には看護サマリーさえないこともある。)退院の前には、しっかりと情報を共有し、もっと患者さんや家族、在宅など関係者と対話をするべきだと感じた。
- ・押し付けではない医療、患者さんの生活に合った方法を見つけることが何より再入院の予防になるのではないかなと思った。
- ・全て興味をそそる内容で、いずれも本当に身になるお話だった。
- ・ACPにしても認知症にしても退院支援にしても患者さん本人ご家族と対話をする、その人たちの話を聞き、どうしたいのか、どういう思いがあるのか、何を大切にしたいのか、聞くことから始めていきたいなと思う。
- ・専門職のそれぞれの立場から見た、支援のあり方、思いを聞いて参考になった。
- ・QODという考え方、NYHAと再入院の関連、入院時に安静に保つことがHAD進行につながる等、初めて聞く言葉と初めて知る内容だった。

- ・在宅ナースとして、住み慣れた生活の中に戻れてもまた再入院になられる割合が高い理由が分かって、今後の対応に気をつけて再入院にならないよう看護していきたいと思った。
- ・かかりつけの患者についても在宅へ移行する場合は積極的に関わっていきたい。
- ・再入院しないように在宅療養をチームで取り組むことが必要だと思った。
- ・自宅での服用状況改善についての方法があれば知りたかった。
- ・再入院をどう予防していくかとても難しい現状が分かった。訪問診療を担う機関なので、しっかり病院と在宅の橋渡しや在宅での生活を踏まえた具体的なサポート(指導)を今後取り組んでいきたいと思います。
- ・蘆野先生のVTRは大変わかりやすくACPの理解が進んだ。再入院のリアルも病院、施設側の課題が明確に示されていて理解が進んだ。
- ・本人の思いを基点に支援を行う必要性を改めて感じた。
- ・認知症についての自分の知識アップデートは必要だなと改めて思った
- ・入退院支援の「なぜなぜ分析」よかった 認知症観を変える・・・勉強になった
- ・「治す医療から治し支える医療へ」
- ・ACPはあくまでも手段であること、退院1カ月を自宅で迎えることを多職種で目指す
- ・認知観新旧があるためアップデートすること、災害時にも役に立つMCSを更に広めていくことが課題。
- ・再入院になった時の様々な立場によって感じ方が異なること。
- ・慢性心不全患者の再入院を減らすために多職種で連携強化を行いたい
- ・全ての時限に3つのLifeが共通していると感じた。
- ・どのような状況にあってもその人らしく生きていく根幹に住み慣れた場所で、信頼できる人とつながり、自分の考えや価値観を尊重され、自分で決めることを再認識した。
- ・認知症の人が身近にいることが普通になるよう認知症を正しく理解する
- ・退院後、再入院の支援では、出来るだけその人らしい普通の生活をどうやって守るのか、在宅独居の人は栄養管理、服薬管理、志向の節制や24時間の見守りが無い。認知症で独居は、ますます難しいのが現状なので、入院時情報提供を必ずしようと思った。看取りも「人生の完成期」と話され良い言葉だなと。改めて、家族の支援、スタッフ間の支え合い、頭に入った。認知症支援では、本人を置き去りにしないで、その人の思いや意向を聞き取れるように努力します。新しい認知症感、この度の研修で、この言葉を知りました。ありがとうございました。
- ・2次限目の「知ってほしい、再入院のリアル」について色々な理由があると思いましたが在宅での取り組みでは本人家族、地域の方や他職種との関わりが重要になってくると思う。取り組みについては、問題点も多いのではないかなと思うが、その問題点をみんなで検討しながら介護支援専門員として何が出来るのか最善を尽くして行きたいと思いました。

- ・いずれのワーキングの講話も、ご本人の「こう暮らしたい」意思を尊重したケアの大切さが共通のメッセージだったと思う。今日から私自身のできる事として、そのことを胸に対象者と対話を重ねたい。
- ・まずは治療と並行して早期に患者の背景を理解でき、退院に向けた課題に対する関わりを持てるよう、院内協働で取り組んでいきたい。
- ・利用者、家族の人生の一旦を担ってる事を、改めて認識できました。
- ・退院後の生活を見据えてリハビリを行ってはいいるが、他職種との連携や家族への情報提供の不十分さ等の課題はあるのではないかと改めて感じた。また、地域側からの視点と病院側からの視点では、環境が違うからこそ異なっている部分もあることが知れて良かった。
- ・認知症ワーキングで、認知症専門職ではない方々も交えて会議をされていたのが印象的でした。いろいろな立場でと言いながら専門職同士での打ち合わせになりがちですが、地域の方々も交えて自由に意見交換できる場も必要だと気づきました。
- ・どの講話も取り組みについてわかりやすくまとめられ発表のパフォーマンスも上手くてすばらしかったです、勉強になりました。
- ・もっと地域に出て行く機会があればいいなあと思います。ワーキングが一年のまとめをしてもらったようで分かりやすかった。また、ワーキングに参加していない職場の人に、どうやってこの内容を伝えていったらいいのかな、いろいろ考えてもらいたいな、とも思った。
- ・地域やその人の暮らしに参加して、声を聞く生きがい、願いをきき、
- ・その人らしい最善の生活を継続できるために、私にできることを一緒に考える
- ・認知症のイメージが、古い認知症観だった。アップデートが必要だと感じた。
- ・認知症について、決めつけ偏見を持っているのが実は自分だったと気がついた。その人の気持ちを聴く、形だけしていたかもしれない。今後、本当の意味で気持ちに寄り添い、そばにいることを意識していきたい。
- ・今日のリレー学習会で、どのワーキングにも「本人の意思を尊重する」、「寄り添う」という共通のテーマが見えた気がした。
- ・専門職だからこそ頭が凝り固まっている部分ができるしまうので、人として当たり前の事を忘れてはいけないなと思った。定期的な頭の中のアップデートが必要。
- ・「薬は飲めてるから。」という言葉を信じてしまいすぎてもう一歩踏み込んでいけないところもあった。定期的な電話や家族を巻き込んで取り組んでいきたい。

その他、研修のご意見等（自由記載）

- ・ACPに関してはワーキングの取り組みをもっと知りたかった。
- ・今回の研修を通じて、「本人の暮らしを守る」という視点の大切さを改めて学んだ。
- ・特に、新しい認知症観についてのお話は非常に印象的で、自らの認知症観を問い直すことの重要性を強く感じた。
- ・製薬会社という立場ではあるが、医療・介護に関わる一員として、地域の皆様のお取り組みに少しでも貢献ができればと思った。
- ・専門職だけでなく、意識の高い地域住民も参加できる仕組み作りがあれば良い。この度は貴重な機会を作ってください、本当にありがとうございました。
- ・地域や働く場所が違えど、想いや抱えてる課題は同じなんだなと知ることができた。研修に参加することで、それなら自分の今の立ち位置で何ができるのか、これからどこを目指せばいいのか道筋を改めて考えることができたように思います。
- ・自身の勉強不足が否めないなので、研修会にぜひ参加したいが、開催についてどのように情報を得たら良いのか知りたい。
- ・貴重な研修会の企画をいただきありがとうございました。
- ・リレー学習形式はそれぞれの専門分野のことが学べるだけでなく、共通することにも気づけるので、とても学びが深まります。
- ・webの方が参加しやすいですが、集合研修の方が学びが多いです。
- ・一限目の研修テキストは、文字が小さく見えなくて残念でした。
- ・各ワーキンググループでの1年間の取り組みのまとめを聞かせていただける、大変貴重な機会をいつもありがとうございます。
- ・他のワーキングがどんなことをしているのかを知ることができ、とても参考になった。本日の参加者がどの程度だったか分からないが、もっと参加してもらい、ワーキングで皆が感じたことを共感してもらえたらいいと思った。
- ・声が反響して聞き取りづらかった。
- ・患者を生活者として捉え、看護やケアが途切れない仕組みと質の向上を目指す。
- ・ありがとうございました。光市在住です。周南市に負けない地域づくりができるといいです。
- ・自分を見つめ直すきっかけになりました。新しい認知症観、持ちたいと思います。
- ・カスタマーハラスメントの対応
- ・貴重なお時間、有り難うございました。